50万分の1地質図幅「京都」第4版

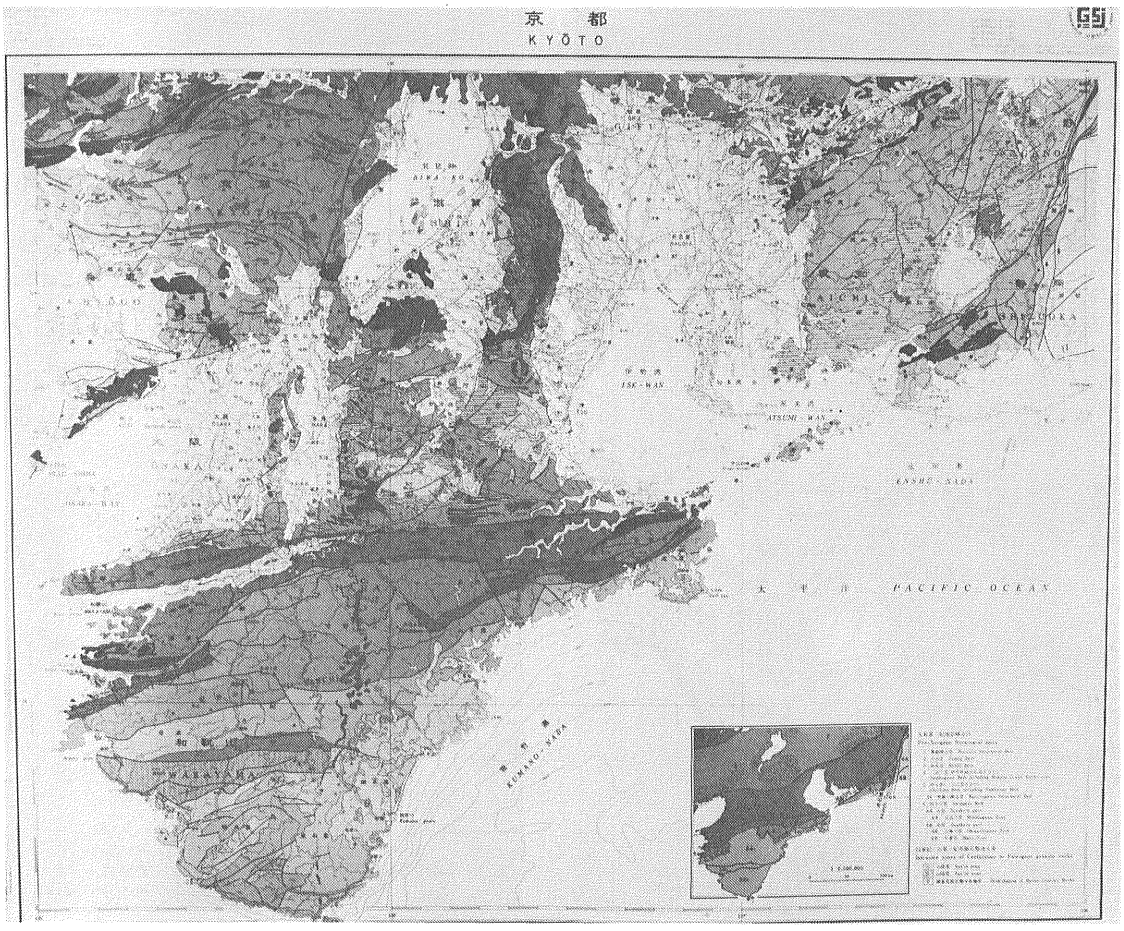
編　集：田中啓策・山田直利・坂本　亨・吉田史郎
（地質部）．宮村　学（大阪出張所）
発　行：昭和57年12月20日　工業技術院地質調査所
価　格：2,410円（送料350円）
取扱先：東京地学協会

京都図幅の範囲は　北は舞鶴湾から南は潮岬まで　また　西は明石から東は掛川までの地域であり　京阪神および中京の2大都市圏を含み　日本の人口の約3割がここに集中している．

地質的には　飛騨帯・三郡帯を除く西南日本の先新第三紀地質区のすべてを含み　新第三系については　北陸—山陰区（グリーンタフ地域）を除いて　瀬戸内区・南海区を含んでいる。

京都図幅の初版は　1951年に出版されている．　編者は「五十万分之一地質図編纂委員会」（飯山敏春ほか10名）である．　これは　終戦後　各界からの要望にこたえて計画された50万分の1日本総合地質図シリーズの第1号であった．　基図の調製は草深源三郎技官が　また　印刷校訂は安室　豊技官（いずれも当時測図課）が担当した．印刷は　多色刷・地紋方式によっている．

初版発行後　第2版（1954）　第3版（1959）と　版を重ねているが　内容には変化がみられない．　したがって今回の第4版は　実に31年ぶりの改訂版であり　その間の日本の地質学の進展を本図から読みとることができよ



第1図　50万分の1地質図幅「京都」第4版　　右下に構造区分図が添えられている．

う.

地質区分（凡例）の数は　旧版の28に対して　新版では66になっている.　また　新版では新たに褶曲軸を図示した.　さらに　以下のような新しい試みを行った.

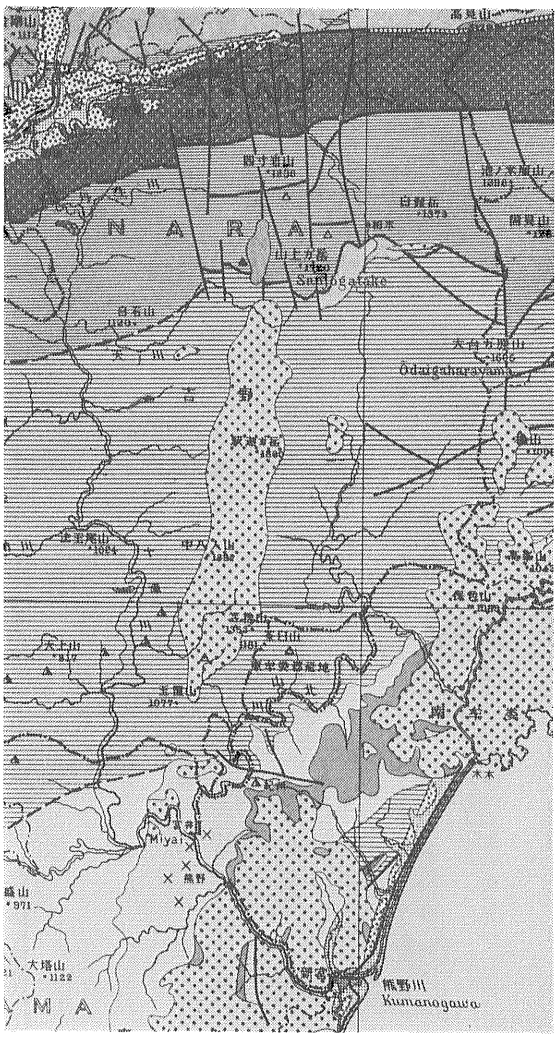
- **構造区分図（先新第三紀）を分図として掲げた（第1図）.**
- **堆積岩からなる地質系統には　堆積環境（海成・浅海成・非海成）を付記した.**
- **埋立地を地質系統とは別に表現した.　また　沖積層も地層であるという観点から　白地ではなく　淡い桃色で示した.**

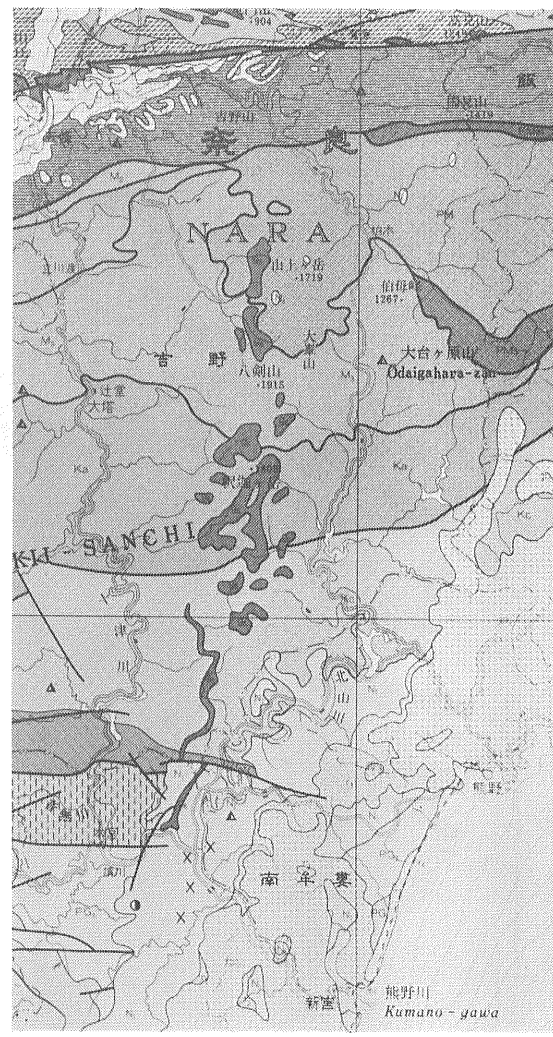
先新第三紀地層群については　旧版をつぎのように大きく改変した.

- 秩父帯の二畳紀—中生代中期地層群を細分した（たとえば北—中帯の PM　南帯の PMs　など）.
- 丹波帯の二畳紀—中生代中期地層群中の特定岩体（玄武岩：P_1　石灰岩：l）を記入し　また　舞鶴層群（P_2）をこれから分離した.
- 四万十累層群を　時代・構造区・岩相の特徴によって細分し　その北縁線の位置を修正した（第2図）.
- シルルーデボン系や石炭系を　やや誇張して示した.

上記の各地層群については　旧版では漠然と表現されている地質時代が　新版ではかなり詳しく示されている.この点は　とくにコノドント・放散虫などに関する最近の研究成果に負うところが大きい.

内帯の上部新生界は　第一瀬戸内累層群（N_1　$N_1'N_2$）瀬戸内火山岩類（r_3　a_3）第二瀬戸内累層群（N_3　N_3'　Q_1　Q_2）段丘堆積物（Q_4）の4つに大別されることにより旧版とは面目を一新している.





第2図　紀伊半島中央部の地質図　　左：第1版　右：第4版

このうち　第二瀬戸内累層群については　大阪・古琵琶湖・東海の３層群すべてが含まれており　一望するのに手頃な縮尺となっている．　さらに　３層群を鮮新統・下部更新統・中部更新統と細分することにより　東海→古琵琶湖→大阪層群と　堆積盆が東から西へ移動しているのが　明瞭に読みとれる．　なお　指標テラフであるアズキ火山灰層の分布を示したのも　新しい試みのひとつである．

このような細かい表現を可能にしたのは　各地域で地道な火山灰層序学的研究が積み重ねられ　その上に立って　生層序・年代層序学的研究が遂行された結果である．第二瀬戸内累層群の研究の進展が　いかにめざましいものであったかが　新旧両版の違いからうかがわれる．

内帯の花崗岩類は　旧版では１色で表現されていたが領家帯（古期および新期）　山陽帯　山陰帯に区分され時代と共に火成活動の中心が北方へ推移して行った状況が一目瞭然となっている．

とくに領家帯については　岩相の識別により内部構造がこまかく図示され　近畿地方西部でそのトレンドが東西から北西方向に転ずることが読みとれる．　これはここ10年来の領家研究グループの系統的な研究成果に負うところが大きい．　たとえば　上野盆地東方の変成岩地帯は旧版ではすべて花崗岩類に含められていた．　戦前の近畿領家帯の研究がいかに立遅れていたかを示すものであろう．

外帯の中新世火成岩類は　熊野酸性岩と大峯花崗岩類に大別された．　大峯花崗岩類の分布形態が　「さつまいも」状から小岩体群に書き改められた点など　山岳地域における戦後の地質調査の進展を　目の当たりにみる思いがする（第２図）．

なお　地質調査所で発行する50万分の１地質図類の基図は　昭和55年度から　国土地理院発行の50万分の１地方図を複製の上　一部修正して使用することになった．新しい基図の調製は　資料室山口幸光技官が担当した．本図は　新方式による50万分の１地質図幅の第１号である．　印刷は　４原色カラーチャートならびに別色（６色）地紋方式を併用して行った．　印刷校訂は　資料室井上正文技官が担当した．

〔付記〕知多湾東岸に「二畳紀—中生代中期の堆積岩（PM）の分布が示されているが　これは　埋立地（R）の間違いである．

昭和57年度発行地質図類の販売価格のお知らせ

地質図名		販売価格	地質図名		販売価格
1/5万地質図幅	市野瀬	2,390円（説明書共）		(1/20万)	
	岩国	2,550 〃	21	中部太平洋マンガン団塊分布図（1/200万）	1,510
	魚貫崎及び牛深	2,390 〃			
	奥尻島北部及び南部	2,510 〃	22	釜石沖海底地質図（1/20万）	2,710（説明書共）
	神津島	2,390 〃			
	神戸	2,980 〃	23	日本周辺海底地質図（1/300万）	1,550
	薩摩硫黄島	2,390 〃			
	三瓶山	3,600 〃	水理地質図 32	新潟県高田平野水理地質図（1/5万）	1,790
	信濃池田	2,580 〃			
	中浜	2,390 〃	1/50万活構造図 6	秋田	1,710
	早岐	2,390 〃	11	京都	1,660
	与那国島	2,390 〃	13	高知	1,460
1/20万地質図幅	田辺	1,530	火山地質図 3	草津白根	1,510
	室蘭	2,140	空中磁気図 31	関東沖東方海域（1/20万）	1,030
1/50万地質図幅	京都（第４版）	2,410			
海洋地質図 20	隠岐海峡海底地質図	2,530	地質図目録図	1983年版	700

地質図取扱所：東京地学協会　(03) 261-0809
102　東京都千代田区二番町　12—2
その他全国主要書店